

持続可能な開発に向けた歳入を倍加するための連帯税に関する宣言

私たち、2015年7月にエチオピアのアディス・アベバで開催された「第3回国際開発資金会合」に参加した「開発のための革新的資金創出に関するリーディング・グループ」の加盟国は、以下、宣言します。

あらゆる形の貧困をなくし、持続可能な開発について、その3つの要素(訳注:経済・社会・環境の3つの要素のこと)をバランスよく統合した形で実現することを約束します。

地球規模の社会的・経済的・環境的な課題に照らして、民間および公的資金の流れを持続可能な開発にシフトさせるためには、追加的な資金とメカニズムが必要であり、それを作り出すためにはイノベーションが必要であることを認識します。

2002年3月にメキシコのモンテレーで開催された第1回国際開発資金会議で「革新的資金創出」が最初に提唱されて以来、様々の多様な資金源とメカニズムによって、少なくとも75億ドル¹が、数えきれないくらいの人々の命を救い、また、その生活を改善したことに留意します。

国連、G7、G20、欧州連合、その他主要なフィランソロピー系財団を含め、数多くの国際的なフォーラムにおいて、革新的資金創出が討議されていることにも留意します。

グローバル化の利益を最も享受している、金融、採掘産業、航空および船舶による運輸、そして観光などのセクターが、利率の低い課税制度を活用することで、人々と地球の利益にとって重要な、長期的で予測可能な資金創出を行い、これを自発的な連帯のための貢献とすることができることを認識します。

「リーディング・グループ」から生まれた保健のための資金拠出機関である「ユニットエイド」(UNITAID)が、2006年以来、航空券連帯税を主要な財源として活用して、25億ドル以上の資金をHIV/AIDS、結核、マラリアの治療の供給に使い、数十万人の命を救っていること、および、これがたとえば金融取引税のような、よりスケールの大きなイニシアティブの実現に向けた先づきをなしているということに、光を当てます。

革新的資金創出は、開発に資する資金供給の方法を多様化し、また、予測可能で信頼性の高い、効果的な資金を供給し届けるために、様々な形態と目的を設定することができます。国際社会は、欧州連合の「混合メカニズム」(訳注:借款と無償を組み合わせる効果的な援助を行うための欧州連合のメカニズム)のような、国際的な公的資金を導入するための革新的資金とメカニズムの活用、および、グローバル化による利益をもとにした国際的な課税など、追加的な資金の拡大を継続的に追及することで、貧困の解消や、気候変動対策を含めた持続可能な開発に貢献するべきです。

私たちは、他国に対して、自発的に連帯税を導入することで、グローバル化によって利益を得たセクターに課税することで、それによる利益を享受していない人々に資金を回し、持続可能な開発目標(SDGs)達成のために必要な資金を創出していく試みに参加することを呼び掛けます。

(翻訳:「動く→動かす」事務局)

¹ 2014年の「リーディング・グループ」によるこれまでに実施された各種イニシアティブについて検証して得られたデータに基づく。